



新しい学び（須坂モデル）を実現する学校 ～ 小中一貫教育の学び ～

今回は須坂市で進めようとしている「小中一貫教育」についてです。「小中一貫教育」とは、小学校の6年間と中学校の3年間を合わせた9年間の義務教育を一貫して行う教育制度のことです。

小中一貫教育のよさについて、お話しします



学力の一層の向上に向けた新たな取組ができます

小中一貫教育を行う学校の学習には、大きく3つのよさがあります。

- 一貫した独自のカリキュラムが導入できます
- 小学校の多くの教科で教科担任制を導入できます
- 9年間を通して学習の習得度を把握でき、小学校の学習を中学校で補うことができます

小中一貫教育では、小中学校の切れ目をなくし9年間という長期間で教育を行えることが最大の特徴です。小学校の学習で定着できなかった内容を中学校で補うなど、小中一貫教育ならではの教育内容や指導体制で、独自のカリキュラムを組むことができます。小中一貫教育では、小学校から中学校への進級における連携はスムーズであり、学習面や環境面におけるギャップを心配することはありません。さらに学校は、長期間にわたって子どもの様子を把握することができるため、一人ひとりの個性を理解し、伸ばす教育を行うことができます。

中1ギャップの解消が期待できます

小学校から中学校への進学においては、「中1ギャップ（小学校生活とは異なる新しい環境や生活スタイルなどになじめず、授業についていけなくなったり、不登校等が起こったりする現象）」という課題があります。これは、小学校と比べて学習の難易度が上がる、近隣の小学校から生徒が集まるため人間関係にストレスを抱えやすい、環境が大きく変わり不安を感じやすい等が原因と考えられています。

小中一貫教育が、このような課題の軽減につながるのは、「日常的に上の学年や下の学年との交流が多い」「環境が大きく変化することがない」「進級における学習のフォローができる」「幅広い年齢層と交流するため先輩後輩としての意識をもちやすい」「環境に慣れながら進級できるため小中学校のギャップを感じにくい」等の利点があるからです。

幅広い年齢層とのコミュニケーションが期待できます

幅広い年齢層が同じ環境で学ぶため、より広い視野でのコミュニケーションが期待できます。様々な学年の子ども達が交流することで、上級生への憧れや尊敬の気持ち、あるいは下級生への思いやり等が育まれます。このような交流ができるのは小中一貫教育のよさです。

小中一貫教育を進めるためには、どんな学校の形がよいでしょうか。次回は、「小中一貫教育を進めるための学校類型」についてです。